

緑の地球ネットワーク

2015 8月 黄土高原スタディツアー

体験記

2015.8.22 ~ 8.28



認定 NPO 法人 緑の地球ネットワーク

〒 552-0012 大阪市港区市岡 1-4-24-501

TEL.06-6576-6181 FAX.06-6576-6182

e-mail : gentree@s4.dion.ne.jp URL <http://gen-tree.org>

【日程】

- 8月22日(土) 朝、出発。昼、北京着。バスで大同市^{だいどう}靈丘^{れいきゅう}県へ。 明珠国際商務酒店泊
- 23日(日) 上寨鎮^{じょうさいちん}の南天門自然植物園へ。終日植樹、見学。 //
- 24日(月) 渾源^{こんげん}県懸空寺^{けんくうじ}参観。呉城^{ごじょう}村のアンズ果樹園見学。大同市へ
雁北賓館^{がんほく}泊
- 25日(火) 天鎮^{てんちん}県張西河^{ちやうせいが}郷史家^{しか}窰^{かやう}村でマツを植樹。昼食。小学校で交流。
天鎮温泉商務会館^{てんちん}泊
- 26日(水) 大同^{じゅらく}県聚楽^{さいりやうざん}郷采涼山地球環境林、カササギの森見学。王千戸^{おうせんと}村の緑の地球
環境センターで作業。大同市総工会主催の会食。 雁北賓館^{がんほく}泊
- 27日(木) 雲崗^{うんこう}の石窟、博物館見学。買い物。夜行列車で北京へ。 車中泊
- 28日(金) 早朝、北京着。白雲^{はくうんかん}觀参観後、北京空港へ。帰国

(読みがなは原則として日本語の音読みをあてました。)

【参加者名簿】

K. A	岡山県	T. A	岡山県
Y. I	北京市	Y. I	広島県
T. S	大阪府	高見 邦雄	兵庫県
S. C	東京都	R. C	陝西省
F. N	熊本県	A. N	大阪府
O. N	鳥取県	東川 貴子	兵庫県
M. H	大阪府	S. F	兵庫県
K. H	大阪府	前中 久行	大阪府
S. M	東京都	T. M	長野県
M. M	長野県		

【中国側スタッフ】

ぶしゅんちん
武春珍 (緑色地球ネットワーク大同事務所長)

りかいせい
李海静 (// スタッフ)

おうへい
王萍 (// 通訳)

さいきやうらん
柴京雲 (大同市総工会副主席)

ぎせいがく
魏生学 (緑色地球ネットワーク大同事務所副所長)

かくほせい
郭保青 (// 運転手)

りこうとう
李向東 (南天門自然植物園責任者)

とうそきん
唐素勤 (通訳)

● 8月22日(土) 大阪・くもり 北京・大同 晴れ(途中ゲリラ雨)

【S.F記】

北京首都空港で関西空港グループ、羽田空港グループ、北京在住組が合流して出発。

北京は澄み切った青空だった。これまでの経験では大気汚染で、どんよりしているのが私の通念だったが、これは世界陸上で北京市外の車の入市規制をしているためかと前中代表の説明。これに加えて、北京オリンピックの時のように工場の操業を規制しているのかもしれない。

大同に向かう途中の川に水があった。これも予期しなかったことで、よそごとながらうれしかった。最近雨が多かったのか。

今年はこれまでよりずっと早く霊丘県に着けるかもしれないとの前中代表の説明だったが、途中で進めなくなって引き返して、結局到着は午後7時25分ごろ。

道中のポプラ並木でたくさんの鳥の巣を見た。カササギか。そう言えばカササギが飛んでいるのを見かけた。

高見副代表とは北京でいったん別れたので、バスの中はもっぱら前中代表が説明役を果たした。代表、お疲れさまでした。

【東川貴子記】

今回は一昨年の8月以来と、少しブランクが長目のツアー。

一昨年といえば、北京で写真家の橋本さんを迷子にしまった時で、今回、なんとその時ともお世話になった日本大使館の井上さんの奥様が参加される。……これはもう、お世話になりましたと深く感謝しかありません。

さて、集合、チェックインとスムーズにすすんだが(チェックインが機械化されていた。かなり時短になるのでは)、飛行機の出発が少々遅れる。その遅れがそのままずれ込んだのか、北京到着は12時30分。

降りる時、前を歩いていたO.NさんがCAさんに、「植樹がんばってください」と声をかけられてびっくり。なぜ知っている? 考えてみれば、もろもろのツテをたどってチケットを押さえていただいているので、この便にその客が乗っていることを知っているCAさんがいても不思議はない。しかし、名札をみてわかるとは、ちょっとすごい。

開空便が遅れたこともあり、北京空港集合だった井上さんはご家族でいらしていたので、時間つぶしをしておられて、少し待つ。団と離れて、1日半北京で動く高見さんとはすでに別れていたの、旧知の大使館勤務の井上さんのご主人は残念そうでした。ごめんなさい。そして重ねがさね、一昨年はありがとうございました。

北京空港をバスで出発したのが13時40分ごろ。高速を順調に走り、張家口の手前ではトンネルを抜けると雨、次のトンネルを抜けると晴れ、ということがあった。そうそう、追い越し時のクラクションが以前ほどけたたましくなくなっていた気がする。頻度も少なかった。

高速は霊丘まで通じていると聞いていたのに、バスは涿源で高速を降りた。17時10分ごろ、料金160元なり。そこから涿源の市街地を抜けて、一路霊丘へ……。と思ったら。40分ほど走ったところでなんと道路工事に行き当たり、引き返すことに。18時30分ごろ再び高速にのり霊丘へ。運転手さんが、料金所を抜ける時に「霊丘で降りられるか」と聞いていたそうなので、初めての道がちょっと不安で、確実に知っている地道を選んだのかもしれない。

再び高速にのって40分、霊丘に到着。料金所で40元といわれ、それは間違っていると5分弱、25元払って降りる。こういうところ、日本なら面倒だしまあいいや、という人も多いが、中国の人はきっちりしている。

19時30分 ホテルに到着。魏副所長、小李、小郭の出迎えをうける。

夕食には霊丘県総工会会長の劉さんがお見えで、歓迎のあいさつ。ちょっと驚いたのが大同市外事弁公室の張さんが、わざわざ大同から来ておられたこと。なにかとうるさい外弁、なにしに来た

のかな？

なにはともあれ、ちょっとしたハプニングはありましたが、無事にみんな霊丘に着いてひと安心。明日からのツアー本番が実りあるものとなりますように。

● 8月23日（日）くもり後大雨

【T.A記】

7:00 朝食 中国料理のバイキング。あわのかゆ、まんとう、めん、玉子スープと種々のつけもの。少しず味だがおいしい。つけものがかなりからいのはおかゆに合うから？

8:30 南天門自然植物園へ出発！ 南天門自然植物園は明珠国際ホテルから南東へ25km。

出発して間もなく携帯が鳴り、なんと李さんを忘れて来てしまったとの事。待つこと数分、車で送られて李さん到着。波乱の幕開け、でも全員揃って、いざ出発。

日光のいろは坂の様なヘアピンカーブの山道をくねくねと上り山越え、下った先はのどかな農村地帯。ポツリポツリと小さな集落や、時にはちょっとした町を通りぬける。途中でフリーマーケットらしき所を通る。下りて見る事はできなかったが、いろとりどりの服をならべたテントがいっぱい、はしっこでは中古バイクも売っているらしい。お祭りの様ににぎやかで楽しそう。

フリーマーケット好きの私はのぞいてみたかった。中国の女性はオシャレでカラフルだな～と思う。

10:30 ころ ここから先はバスが入れないので歩いて下さい。といわれ山道をあらく。デルフィニウム、朝顔、ツルニンジン、どの花も岡山の我家の近くにもあるが、色のあざやかさが全然ちがう、きれいだ。

あわ、きび、とうもろこし等、名前は知っているけれど、実際に生えているのを見るのははじめてだ。

特に麻は面白い。麻は茎は布になり実は調味料になり葉はなんと大麻。“これをポケットに入れておくとつかまりますよ～”との事。気をつけましょう。

11:10 南天門植物園事務所の到着

植物園というから、入場客も来たりするにぎやかな所と思っていたが、こんな山奥に遊びに来る人はいないから、植物を育てたり研究するところらしい。

11:20 事務所スタッフにあいさつ、説明を聞いて苗木、水、スコップなどを持って出発。

はじめは全員で2本植えると聞いていたが、事務所の人に渡されるままに持って行き、結局アブラマツを6、7本植えた。

私は黄土高原というから黄土色の裸の大地に植えると思っていたが、かなり草や木のしげっている所で、20年間の“緑の地球ネットワーク”の業績はすごいな～と感動した。

12:00 事務所で、インスタントラーメン、ゆで玉子、ソーセージ等で昼食。中国のインスタントラーメンは日本より大きめで、からい。できるだけからそうでないのを選んだが、やっぱりからい。アジア人はからいもの好きが多いが、私はからさに弱い。

12:30 近くの南天門(1316.8m)登山。

無理はしない様に～と言われたが、行ってみることにする。しばらくすると雨。そのうち止むだろうと進んでいたが、雨はだんだんひどくなり、雷も鳴りはじめたので退却。なんとなんと雹もふってきた。

2:30 止みそうもないので、雨装備でバスの待っている所まで歩く。たった4時間前に野草やひえ、あわを見ながら歩いたあの道が、ドロ水で川の様になっている。ドロにまみれながら30分。

3:00 やっとバスにのりこむ、が、バスの前は川の様。あれ？さっきこんな川あったっけ？

黄土高原の土は水を吸わないので、降った雨がそのまま土の表面をけずりながら濁流となって流れてしまうという。恵みの雨も、なかなか恵みにならないらしい

バスのうしろに、家族3・4人乗った小さな三輪トラックが立往生。Nさんが後を押してなんとかドロの川を渡らせてあげる。バスも続いてなんとか脱出。

4:00 しばらく行くと車の大渋滞。道に土石流が流れこんで、にっちもさっちもいかない。どこからこんな大量の土石流がながれこんで来たのだろう。待つ間に反対車線にうしろからの車が来たり、見物人が来たり～。誰かが「こんな時は水売りや物うりが来るものだ～」と言っていたが、今日は雨も降っているのでそれはなかった。

4:25 大型ブルドーザーが来て石をどける。さすがにブルドーザー（車体に超強王とかいてあった）大量の土石流をガバガバどける。

4:38 やっと脱出。

前中さんの説明によれば、このブルドーザーのおじさんは土石流をのける前にドライバーと交渉、一台20元を払う事になったらしい。20元が高いか安いかはわからないけれど、とりあえず助かった。

5:00 雨にぬれた体で この渋滞、トイレに行きたい～。李さんが見つけてくれた農家でトイレを借りる。

1m四角、深さ1mほどの穴の上に丸太が4本渡してある屋外トイレ。どうしてすればいいのか、足がすくむ。でもガマンも限界、なんとか完了。

このあと、元気でオシャレなこの家のママさんとおしゃべり。子供が4人いて、上の子供たちは、もう大人で家を出ていて、下の子は中学3年と1年等々、こわかったトイレも忘れてたのしいひととき。ここまでは1人っ子政策は関係ないのかな？

5:35 いろいろトラブルがあったが、予定より早くホテルに到着。

6:30 食事。

いろいろめずらしい体験をして、たのしい1日でした。この旅は一生忘れないだろう。

【T.S記】

前日の長旅の疲れでぐっすり寝られるとおもいきや、水洗便器の水が詰まった夢などみて、快適な寝ざめとは言い難かった。

しかし、天気は快晴で、気持の良い朝8時30分にホテルを出発した。大同市霊丘県は（日本とは市と県の行政区別が反対）360°山に囲まれた盆地にあり、その中心がホテルのある市街地である。そこから南東方向にある「南天門自然植物園」に向かった。

バスの車窓からはトウモロコシ畑と、その中に時々ヒマワリと、端にカボチャの花が咲いているのがみられる。稲穂のなびく日本の風景とは少し異なる。

田園を通り、村を通過する時には、家の前で座ってのんびりと沿道をながめている人々の姿がなかなかつかしい感じがする。また、ヒツジ、ヤギ、ロバ、ウシなどの家畜もいろんな場所に放牧されている。また、日本では佐賀地方しかみられないカササギも到るところにみられた。

昨日もそうだったが、道路事情でまわり道となった。盆地の縁にあたる山を越えると、霊丘県の全景を美しくみることができた。

自然植物園の少し手前でバスを降り、徒歩で管理所に行く途中、前中先生から作物や樹木、花などのいろいろな説明をきいた。

大部分は名前をきいてもすぐ忘れてしまうのだが、印象に残ったのは、アワとキビの作物であった。名前は知っているものの、実物を今までみたこともなかった。

余談になるが、童話「桃太郎」にでてくるキビダンゴはこのキビではなく「吉備」の国のキビダンゴであるとの話には、妙に納得できた。

また、桃太郎軍団がなんのため鬼の征伐つに行ったのか、その「大義名分」がもうひとつ分らない。これはおとぎ話だけの世界だけではないようだ。

閑話休題

管理所に着いて、まず、松（アブラマツ）の記念植樹をしたが、かん木と草のおい茂った中をかきわけ、今まで話をきいていた場所とはまるで違った雰囲気の中で、長年に亘る先人の努力の結果としても、少しイメージの異なった植樹であった。

インスタントラーメンの昼食の後、いよいよ山登りに出発したが、間もなく雷と降雨のためすぐに引返した。ヒョウ混じりの激しい雨であったが、考えようによっては「恵の雨」を我々ツアーがおみやげに持っていったものと解釈したい。

予定より早めに帰路についたが、雨のため歩く道はぬかるみ。やっとバスのところにたどりついたが、今度は道路が満水して、2度にわたってバスが立往生するハプニングにみまわれた。

ブルドーザーがきて、土砂を取り除いてやっと通行できたが、通行料として一台につき20元の徴収は、奇妙な感覚であった。

早目に出発したものの、このアクシデントでホテル着は予定通りの時間となった。

「今回も、予定通りにいくこと、そうでないこといろいろありそうです」という高見さんのコメントがあらためて身にしみた「体感」でした。

【前中久行記】

昨日は北京着。北京から霊丘まで高速道路が通じたということで、初めての行路、空港から南へ、次いで西へ、その後少し北への経路で、涇源方面へ向う。河北省西部の山では、植苗が進んでいる。植生の自然回復（現状では灌木だが）も進んでいる。もう植える所が無いとの感じを持った。

涇源東より先は長短のトンネルの連続だった。トンネルを出るたびに強い雨が降っていたり、止んでいたりが多かった。定宿にしている明珠国際大酒店に到着。

朝食は4月と変わらぬシステム。ただし品数が多くなった。食器も新しくなっている。テーブルやイスも新しい。

南天門自然植物園へ向けて出発する。

いつもとは別の経路を通っている。魏さんに聞くと、道路が工事中で通れず、別のルートを取るとの事、さて、別のルートはあるにはあるがこの大きさのバスは通れないはずと思っていると、バスは山へのぼって行く。眼下に霊丘の盆地がみえて、美しい。新しく広い道路が出来たらしい。

上り下りを2度くりかえして、国道108号に到る。北へ向かう。上寨鎮を通過して植物園入口に向かう。小川をわたった所でバスをおりて、徒歩で、植物園へ向う。

トウモロコシ、アワ、キビ、ジャガイモの生育がとても良い。今年は豊作が期待できる。

到着後、まず、油松10本弱を植える。記念植樹ということ。管理棟へもどって昼食とする。カップラーメンの容器の色が紫色のきれいなものがあったので手に取る。たべようとするすとすこぶるからい。外側をみると辛さを示すトウガラシマークの5つのうち3つが赤色だった。辛くて少ししかたべられなかった。

山へ向う。今回は全員が山方向行グループ。出発ごろから雲が厚みを増して来た。数分登った頃からゴロゴロの音が強くなる。

先頭を行くNさんが「カミナリ来そう」と口に出す。それと同じにピカッと来た。ここは言霊の世界。口に出たことは実現するのだ！

山行中止の決定をする。降りはじめた雨の中を管理棟へもどる。雨はきわめて強く、時にヒョウも混ざる。1時間ほどで弱い雨になる。水量が増せば川を渡れなくなるとの魏さんの判断で、まだ雨は降っているけれどもバスに向かう。途中の道もいたるところ水が流れており、隣りの畑のあぜを通るなどして、ようやくバスにたどりつく。とりつきの川の水位が高く、バスが渡渉できない。周金さんが川の中へ入り水位をたしかめてくれる、ヒザ高よりは下であるが、運転手は慎重で、水位の低下を待つ。

約30分で、見えていなかった石が5cm程度見えるようになるなど、水位がやや低下した。バスを川中へ進め無事渉りおえる。全員で拍手する。その後は来た道を通して霊丘へ向う。

その途上で一大事。別の川のところで、今度は流れて来た土石によって川床道路が埋まっていた渡ることができない。普通車は注意深く運転すれば渡ることができるが、バスなどは巾が広くて渡ることができない。

そこへ、ブルドーザに乗ってオジサンがやって来た。「みんなに20元出せ」と言っているらしい。大型ブルが動き出して、半時間程で道路をおおっていた土石が取り除かれた。すごい威力である。

私たちのバスも20元支払って無事に通過。これが中国なのだと思う。

「自力解決という意味では健全で、日本の社会ではみるこがない力強さ」と私は思う。

午後5時半ホテル帰着。6時半ホテルで夕食。

植物園の山の上をツアーの皆様にも見ていただけなかったのは残念ではあるが、「残りを有意義なものにしたい」とつぶやいている私であった。

● 8月24日(月) 曇り後雨

【M.M記】

今朝はモヤっている

8:30 出発 9:30 通行止(工事中) 魏さんが関係者にかけてくれる。外に出て足腰をのばしていると、15分ぐらいで通行可の許可が出た。魏さんの力。どこでどう話がついたかは不明。

天然ガスのパイプラインが見えるところを通る、大同へひいている、大同では石炭の使用禁止、空気がよごれなくなったと話。

露天掘の炭坑(5年ぐらい前から掘りはじめ)の地域を下る。大規模な風景、ほり出された石、石炭……。

道教の聖地・恒山→トンネル→恒山懸空寺→

懸空寺は木造で、すずなりの人が登っている。落ちないかなあと心配で、壁にへばりついて見物。→渾源県城で昼食、隼泰大酒店。料理の品数がとても多く、皆、大皿で。豆類とじゃがいもの加工食が変化にとんでる。「こんなに食べられな一い」と皆ため息つきつき、残った料理をうらめしそうに眺めつつハシを置く。

→呉城村 あんず畑を見学。8年前は3月末に来たので、今は緑多く木も大きくしげっている。

村の書記長さんから「今は春は花、夏はアンズ、秋は紅葉と、観光客も来る」と説明、よかった！畑から遠くの呉城村を遠望する。オレンジ色の屋根が並び、しっかりと豊かな感じが伝わってくる。

→山合の道をぬけてゆく。ここらの山々はヤギや羊の放牧がまだ行なわれていて、緑がうすい。

→大同の平原へ。塩分が盆地に水とともに入ってきて、たまっている。耕作に向かない土地には2×2km四方の広さに太陽光発電パネル。この電気は工業特区で使用。

→そして、マンション群のたち並ぶ大同市街へ。高層マンションの多さにびっくりする！東京周辺のベッドタウンでも、ここまでたくさんはない。しかも全部高層。建築中のもあり、まだ増えそう。

夕立前にホテルについて、明日早朝、市場へ行くぞとはりきる。

【S.C記】

日本語を修正することは多いと思うので、鉛筆で書かせていただきます。

昨日は、久しぶりの雨が降ってきて、南天門植物園で道が川になってしまい、車も通過困難であった。それゆえ、今日こそ洗濯すると思っても、もし次の日に乾かなかったら？という心配もあった。しかし実際、手で絞って水分を取る程度で、次の日は完全に乾いた。ほんとうに土も空気も大変乾燥であった。

今日は、朝食をたべてから「懸空寺」という観光名所に行った。

中国語の意味で「空に浮かぶお寺」である。外観は、崖で建てられたお寺で、下からも何本の柱で支えられていた。昔はなかったはずなのに、何故か今回、こんな高いところが怖いという感じが芽生えはじめた。

「懸空寺」にのぼり、床が「ジージー」とひびいていた。1400年前に建てられた建物なので、こんなに多くの観光客の重量に耐えられたなんて信じられなかった。さらに、車に戻って魏さんに話

しかけてみると、実は懸空寺を支える柱は飾りであることが分かった。やはり古人の知恵はすごかった。ちなみに、懸空寺に向かう途中で工事で通れなかったはずの道路は、魏さんのおかげで無事に通った。魏さんにありがとうございます。

懸空寺から戻り、昼食の時間になった。今日の昼食はこれまで一番豊かであった。当地の名料理はもちろん、全国で有名な「宮保鶏丁」も、「麻婆豆腐」もあった。残念ながら、頼みすぎて全部食べ切れなかった。普通の宴会でこのような量はあるが、普通の家庭では3品ぐらいしかないのである。

その後トイレに行き、車に戻ろうとしたが、迷ってきた。何か廊下の奥に広くて明るい空間があると見て、「おどりば」と勘違えた。そこに入ったら全然知らない人たちが怪しい目線でこちらをじーと見てきた。他人の部屋に入ると悟った私ははやく逃げ出した。はずかしいことであった。

午後はアンズの園を見学した。そこで村の書記である王さんに話を聞かせてもらった。

もともと小学校の学生に誘い、アンズの木を植え、得た収入で学校建設に使ったようである。その後は村人の収入向上を目的として事業を始めた。

もし粟とかトウモロコシなら1ムーで200～300元の収入があるが、アンズを売ったら1ムー約1000元の収入がある。アンズの木を植え、4年目になると、実はなるが、量は少ないのでお金にならない。7年目になってから正式の収穫期を迎える。トータル4420ムーのアンズがあるが、それを「一人あたり2.3ムー」という基準に村人に分けている。村人に任せて、「自分で管理、自分で収穫、自分で売る」という方針であった。もし一家族に5人がいれば、一年に $2.3 \times 5 \times 1000 = 11500$ 元の収入を得る。

GENは緑化や環境改善だけではなく、村人の収入向上に対しても力を入れて、素晴らしいことであると思う。

明日はSUNTORYさんと一緒に植林する機会があり、村人と交流する機会もある。明日は是非たくさんの人に話を聞かせていただき、雨も降らないように祈っております。

【Y. I 記】

“本日も順調に問題あり”

最近中国風俗事情について

習近平体制になり、掃黄政策（編注：日本の“ピンク”は中国では“黄”になります）が徹底しておこなわれ、都市での洗脚屋（エロマッサージ店）、カラオケ、ディスコといった店がのきなみつぶれていっている。楽しんで儲けるという生活のセーフティネットを失った彼女たちはどこへ行ったのだろうか？ 田舎に帰ってトウモロコシをもうでるわけじゃないだろうし……。

霊丘のホテルの1Fに洗浴があったので3人で行く。入場料はアカスリ込みで25元と良心的。広い浴そうもあり、昼間雨にうたれた体にはやさしい湯だった。

別料金で健全マッサージをしてもらおう。その時、特別サービスはあるのかと聞けば、“有（ある）”との答、500元（1万円）とのことでした。受付近くでは客室へ“マッサージはいらないか”と電話攻勢をしていた。その時も500元という単語を連発していたから、中国人、外人とも同じ料金らしい。ちなみにこれは情報収集のみで、我々3人は不純異性交遊はしてないことは、毛主席に対して誓います。

一元≒20元となったが、私は中国の金銭価値をつかむためには、一元=100円で換算している。バス1元=100円、食事10元=1000円といったように、100円換算すると物価がよくわかります。

8時半ホテルを出発して大同に向かうが、“平型関”近くを通った。せっかく近くまで通るのなら、なぜ参観ルートにいれてくれないのだろうかと思った。わざわざそのためには来れない。せっかくのチャンスだったのに……。

去年見た映画の一（いち）シーンが頭からはなれない。三里塚をめぐる、その後の世界をテーマにした映画で、その中の一人が、いまだに、外国へは行ったことがないという。

“だって、そんなこと（旅行）のために空港を造り、それに乗ってしまえば我々の負けだ。”確

かにそうだ。外国へ行く手段としての飛行機。わざわざ外国へ行く理由があるのだろうか。日本でもすべきことはたくさんあるのに、不必要な空港をつくり、環境にも悪い飛行機に乗り、これまた環境問題の悪人である車に乗り、植林したことによって免罪符を手にする。こういった矛盾した生き方が、人生のおもしろさかもしれないが……。

6年ぶりの大同、緑がふえた。“我家在黄土高坡、大風”の歌のイメージがうすれてきた、K.A氏が言われていた“黄土高原”を“緑土高原”に改名したら、といったような景色が多く見られた。

“美しい村は貧しい”といわれるが、“美しくない街は豊かである”ってことなのでしょう。そんな村がふえてきているような感じがした。

“街の人、田舎をほめて、すぐ帰る”

● 8月25日(火) 大同市内 18℃ 湿度68%

【Y.I記】

5:30 思っていた以上に都市化され、四ツ星とされる雁北賓館で迎えた朝、爽快といたい所、夜中ブンブンとしつこい蚊に追い回され寝不足気味……。それでも青い空に白い雲に迎えられ、すっきりと目覚めた。

7:00 ホテル1階で朝食、旅行中まだ一度もフルーツを食べておらず、そろそろ……と思っていた所、ここではスイカ、リンゴ、トマト等が楽しめた。嬉しい！ ついでに大同では珍しく、コーヒーも飲み大満足(￣ー￣)

Nさん、朝から市場でリンゴと桃を買い皆に分けてくれたものの、連日のごちそうで皆、朝は少食、不評でした……！

8:30 チェック・アウトをして、いざ天鎮県の植樹現場へ。この辺りのホテルでは、タオルやコップ等の備品が無くなっていないかチェックされます。

高見さんは昨夜から合流されているが、バスはサントリー労組さんのバスへ。質問が山のようにあるとのこと！ 目的地まで高速で行くはずが、どういう訳か大型車は通れず地道で行くことに。途中、Mさんが朝に市場で買ったスモモを頂く。甘酸っぱくて美味しい。

10:30 天鎮県内のガソリンスタンドでイオンリテールワーカーズユニオンの合流を待つ。幸いトイレがあったので使わせてもらった。う～ん、すごい！ 中国式トイレだ。これでもずいぶん良い方だとのこと。とにかく、臭い、見た目がすごい。落し物をしても、すぐに諦めがつきそう。

11:30 “地球環境林”に到着。高速が使えなかったこともあり、予定より一時間遅れで植林開始。大きく2ヶ所で200～300本は植えたか。GEN、サントリー労組そしてイオンリテールワーカーズユニオンの集合体なので大所帯！ 植えた松が元気に育ちますように……。

13:10 作業を終え農村へ。大所帯のため個別農家ではなく、地元の役場のような所で昼食をごちそうになる。涼粉、自家製豆腐(泉からの湧水を利用)とじゃが芋の煮物、キビ餅、庭でとれたトマト、もやしや豆腐干の和え物、朝つぶしたばかりの羊肉等々。食べ切れない程のおもてなしに感謝、とても美味でした。

14:30 村を出発し李二口へ。

李二口万里の長城付近には公衆トイレがないため役場にて用を済ませる。このトイレも中国式。だいぶ慣れてきた！

15:20 李二口に到着。

最初、村長さんから土地についての話などを聞く。こういう挨拶では必ず、村の面積について説明がある。中国の人にとって、一つのポイントなのだろうか？ ここは昔から軍事の要所であったとのこと。また、村には農業以外に産業はなく、土地も空気も緑一杯で美しいのだと誇らしげであった。

その後いよいよ登城(というよりも登山?)、意外と傾斜が急で草をひっぱりながら進む。まさに絶景！ 北京でも長城に登ったことはあるが、その長城がここまで続き、さらに続いていること

を感じ、その雄大さに息を飲む。ここに来られて良かった！ 気温は涼しかったが大汗と黄砂でベトベトに；

16:40 ホテルに向けて出発

17:00 ホテルに到着。本日の宿は天鎮温泉商務会館。

予告通り昨夜の宿からグレードは一気に下がる。元々、源泉かけ流し以外は日本でも入らないので私は入らず。入った方によると、色々とシステムが日本と違うらしい。そして混雑！ さすがが中国だ。あかすりはオプションで20元。

18:30 他の2団体と合同で夕食。ご飯はどれもおいしいが特にエビのかき揚げが美味。サントリーの方のお誕生日だったらしく、バースデイケーキも登場。ピンクや緑色のクリームがのっている……少し怖くて食べられず……。中国は、どこに行っても料理が美味しいのが魅力の一つだ。

このツアーに参加し、個人や初心者では入っていけない村の中に入り交流できたこと、とても貴重な体験に感謝しています。残り3日ありますが、今の時点で大満足、ありがとうございます！

追伸：前日の日記当番の趙君の日本語の文章、文字が上手いことに感激でした！負けずに中国語の勉強、頑張らねば！

【R. C 記】

8時すぎにロビーで集合。8時40分にバスが出発。サントリーとイオンと一緒に、バス3台で行く。青い空だった。大同市天鎮県張西河郷に向かう。道路の両側にポプラと柳の木が並んでいる。

到着は11時。時間のために急いで「地球環境林」の植林現場に歩く。水不足のためか、道路そして土地も干上がって割れる。

現場まで30分ぐらいかかった。“熱烈歓迎日本緑化協力団”（「日本緑化協力団のご来臨を心から歓迎を申し上げる」）の横断幕をかけている。張西河郷の郷長の高さんがあいさつして、緑化団の協力を感謝。

前中さんより植え方を説明。特にビニール袋をやぶる方法を教えてもらった。12時から植林開始。スコップが準備でき、穴掘りもできた。苗をそなえつける人と穴を埋める人がペアになって、皆元気で植えることに。作業は40分終了。共に1000本ぐらいの松を植えた。すばらしかった！

昼食は張西河郷委員会で。人が多くて賑やか。料理は山西省独特なもので、おいしかった。食事後、郷長の高さんと植林の規模や効果とかについて交流。「植林してから降雨量が多くなって、春秋の季節に風や砂嵐も小さくなってきた」と高さんが言った。

午後にバスで万里の長城へ。3時半に到着。土壁について紹介の後、歩いて登り始めた。上に登ると、景色が壮大で歴史的な感じ。風も涼しくて気持ちがいい。降りた後、唐先生が皆を連れて太極拳をやった。私は大学体育の授業で太極拳を習って、今も少し覚えている。

4時30分から温泉ホテルへ。

今回のツアーに参加させていただき、魏所長や高見さん、東川さん、及び現地の人と交流でき、植林することを身をもって体験でき、とてもいい勉強になりました。ありがとうございます。黄土高原の環境や生活を一層よくなりますように続いてがんばりましょう。

【K. A 記】

昨夜、市場見物が突然の強い雨で中止となったが、今朝は快晴。ホテル横の人民政府前にある気象電子ボードには「18℃」とある。

ただ、政府正門前には、20～30人の人が座り込みをしていた。揚げていた横断幕には「○産7年、要○○○○」とあり、意味不明。前中代表に聞くと、大同古城内の住民が移転事業を促進せよと陳情しているのだらうと言う。

行政は、古城内の住民を城外に移住させ、城内に明時代のテーマパークをつくるプロジェクトを推進しているのだという。その移転先の高層マンションが市内のいたる所に林立している。

それにしても、大胆な都市改造には、中国の不可解ともいえるエネルギーを感じざるを得ない。違和感なきにしもあらず。

7:00AM、朝食。前夜、前中代表が「明朝の食事はすごいですよ。フルーツもコーヒーもあります」と言っておられた通り、メニューは豊富で、予言通り、スイカとウリ（?）、コーヒーもあった。Nさんが朝市で買って来たとかで、リンゴとモモを差し入れ。リンゴはうまくはけたが、モモはもう一つ人気がなかった。モモ産地・岡山の自分としては、少々残念。

8:45AM、雁北賓館を出発。

サントリー（11名）とイオン（26名）労働組合のメンバーが合流。

若者ばかりの賑やかな一行が加わり、GENの「2015黄土高原スタディツアー」も一気に活気づいた。バスも、計3台となる。1台は大型で、堂々たる編成。

GENの中国側カウンターパートナーである「緑色地球ネットワーク大同事務所」の車（ホンダ）の先導で、天鎮県張西河郷史家窯村へ。そのホンダ車は、走行距離が40万kmを超えたのだという。地球を10周したことになるのかな。それだけ、活躍して来た証拠。来年車検だそうだが、部品が入手できないこともあって、どうするか頭を悩ませているという。「ご苦労さん!!」の気持ち。

去年は工事中だったというりっぱな舗装道路を突っ走る。道路の両側には、工場群が続き、近くには新しい大規模工業団地を造成中という。

これに関して、興味ある話を聞かされた。この工業団地の労働力を確保するため、「農村戸籍」の人を「都市戸籍」に変更するのだという。中国では農村戸籍の人は教育や就職の面で不利なため、都市戸籍を欲しがると聞く。「都市戸籍」取得を条件に農村の労働力を集めようという政策と思える。単なる“ニンジン勧誘”にならないことを祈る。

10:30AM ごろ、地球環境林に到着。

「熱烈歓迎 日本緑化協力団」の横断幕をくぐって、植樹の現場へ。約30分ほどならかな坂道を登って、植樹地にたどり着いた。地元の人たち10人ほどが、スコップ、苗木などを用意して待ちうけていた。植樹用の穴はすでにいくつも多数掘ってあった。

総工会主席など歓迎の辞などセレモニーのあと、一斉にアブラマツの苗木の植え付けを開始。人数が多いこと、若い人がいっぱいあって、作業はスピーディーに進んだ。200本から300本を植えただろうという。これらの苗木が無事に根付くことを心から祈りながら、現場を後にした。

近くの張西河郷共産党中央委員会の建物内で、2グループにわかれて昼食。心づくしの料理で歓待される。相変わらず量は過多。ただ、日本では洗面器のような器に盛られているのが、三つ四つあり、やや興ざめた。

腹ごしらえをたっぷりすませたところで、万里の長城（李二口村）へ。李二口古長城は明時代のものというが、土の城壁が山の尾根を伝って延々と連なっている。壮観であるが、よくも数百年も崩れず残っているものだと驚くのみ。築城の人民の苦労やいかばかりだったか？

この城壁を少し昇り、眼下を見渡すと、高速道路が平原を直線に走り、眼前に広がる峰々の稜線には風力発電の巨大風車が30本ほど立ち並んでいる。時代の流れを感じざるを得なかった。

地元役所の担当者（名前、肩書は聞きそびれた）の説明によると、この長城は「遊牧民の外部侵入」と「人口流出」防止のために築かれたということだったが、この事は今回メンバーのS.M君（早稲田大院生、中国古代史専攻）からバスの中で聞いていたので、S.M君の学識の深さを改めて見直した次第だった。

4:35PM、一路、宿泊予定の天鎮温泉商務会館へ。

日本を離れて4日ぶりに、ゆっくり湯舟につかれるとあって、帰心矢の如し。何はともあれ、浴場へ急ぐ。「いい湯だなあ〜」と実感。

夕食は、若者たちと同席。そのメンバー3人の誕生祝いというハプニングもあって大盛り上がり。

宿の部屋には何やら異臭が漂い、網戸が壊れている。蚊の音がかすかに聞こえる。ハエ（蚊）たたき、蚊取り電気マットもちゃんと備えられており、サービスには抜かりはなかった。

「本日の日記」には関係ないことを一つ。

出発前に頂いたマイチケットの憲法9条パスポートカバー。素晴らしい試みだと感心しました。りっぱだと思いました。文書にあった「作製の背景」が気に入りました。

「日本が<軍備の放棄><交戦権の放棄>を盛り込んだ憲法を持った国であることは、他の国と比べて非常に特徴的であるということに気付くことがある。(略) 曲がりなりにも敗戦後50余年(今年は70年)は軍隊が直接、人を殺りくしていないという事実は、日本人が安全に外国旅行する際の大きな財産になっている」

この事は、海外旅行者のみならず、日本国民が国際社会でいろんな活動をする上でも、欠かせない貴重にして大切な意識であると思っています。時あたかも日本の国会では安保法制論議が沸騰しています。日本に必要なものは、一体何なのでしょう。

冗長になりましたが、お許し下さい。

● 8月26日(水) 晴時々雨

【M.H記】

いい天気だ。8時20分集合。イオンと一緒に、8時30分出発。

鴻雁温泉を出発して、聚楽郷へ向かう。天鎮温泉商務会館の朝食の飲み物はお湯だけだった。これは懐しかった。私も一時お湯ばかり飲んでた時があったし、内モンゴルからきた留学生が、まづお湯を飲むという習慣だった。お湯は飲み慣れると甘い。

サントリーとはお別れ、彼らは北京へ向かい、夜はホーチミンへ行く。

今日は、天鎮県張西河郷史家窯村“地球環境林”へ向かう。案内説明は、高見邦雄さんで、92年から始めた頃の話聞いた。植物園ではなく、植物学園(ボタニカルガーデン)をつくることだという説明。その土地にあった植物も育て、人も育てるとのこと。そこで専門家にも入ってもらった。現地にも大同事務所をつくった。環境林センターも作った。2010年道路をつくる等で、土地が分断される等の困難を乗り越えた話を聞いた。そうしてできた新しい“地球環境林”、かささぎの森に私たちは向かう。

行く途中の道路の脇には、コスモスがとところどころ咲いている。遠くの山には、風力発電が見える。京包線と平行して走る。今日はいいい天気だ。天上には雲はない。稜線近くにだけ雲がある。風は春に吹いて冬近くまで、同じ方向から風が吹くので風力発電にはよいそうだ。道路の脇には、墓がとところどころある。

郷とか鎮とかは行政組織で村は自治組織だそうだ。村長は自主的なリーダーだそうだ。9:50道巾が狭いので、イオンのバスは入れず、何人かうちのバスに乗る。緑の地球環境センター到着は近い。9:55到着。1999年から植え始めた。退耕環林。ヨーロッパ赤松を植えてある。大興安林の樹種。成育が早い。樹形がいい。このあたりが南限の樹種。松は北斜面がいいけどここは南斜面。-30℃で凍った所に、南の陽射しがあると、よくないだろうということ。だけど結果的に成長している。“苗には水を人には酒を”というサントリーの標語がよかった。3m間隔を植えている。うねとみぞをつくって、雨が一気に流れないようにしている。土は水を含むとやわらかくなる。10月半ばに氷点下になる。3月に植える。農閑期である。足りない水は、地中にためた水でおぎなう。

きのこの菌種によって、水やミネラルを吸うのを助ける。だからキンコンキンを。植樹3分管理7分。10月から苗を土にうめる。翌年4月に出す。松はひとふしが一年。水にめぐまれた年はよくのびる。230ヘクタールに(3000本×230)植えた。

北京天津風砂源プロジェクトで、ここを見学にくる。国家プロジェクトが来るようになって、嬉しいことだけれど、私たちの役割が……。木を手で触ってみよう。サントリーの人は“五感塾”と言って、手で触って、感じてみようと言っていた。

松の手触りはよい。風もよい。

ここまで成長して、火事が心配。清明節の火も心配。紙銭を燃やすから。墓もあるから。“墓参

りには水を”これが難題。

見渡すとポツポツと枯れているが、枯れた木は負けた木であり、これは正常。

松はたる木に使う。もう売れるものもある。運賃も含め 1000 元になる。私たちがかけた費用は 7 億+派遣費 2 億。

松の葉は 3 年。黄色くなったのは落ちればよい。枝打ちはしない。ふしは気にしない。ここで集合写真。

11:00 かささぎの森につく。

海拔 1450m。のろし台からのろし台まで 4km。西 1.5km、向こうに 800m、600ha。だいたい植え終えた。生態系にそった植林が大切だが、農村では経済性も求められている。使用権買いつて財産権ももって。2001 年にスタート。水をポンプアップして、見守れる人も置いた。萩やはしばみは大きくならなかった。白カンバはいける。カラ松は伸びない。カラ松は 1700m まで行くと育つ。それらが課題。育つもの育たないものがわかった。

モンゴリナラの見学。1400m 位の中心になる木。一番植えごたえのある木。寿命がしっかり長い。南天門では 14m になったので、その木を持ってきた。ナラの使い道はないと、侯喜さんは言っていたが、自分が最初に植えてみたいとって持ってきた。しかし、ここではなかなか育たないが、伸び出したやつもある。大きくなっている木の下にはツチアワタケが必ず生えている。確たることは言えないが、注意深く見守って行きたい。ナラは注目している樹種だ。

三北防護林として、ナラが育つか、地元でも感心を持ち始めている。リョウトウナラとモンゴリナラ、葉脈の数で見分ける。中間的なやつもある。

出発。バスの中でイオンの人の活動を聞く。グループ発表がある。

11:50 イオンの人がバスを大型に乗り換え。

12:10 “緑の地球環境センター”に到着。食事はセルフサービス。かぼちゃ。ミニトマト。とうもろこし。スイカ。とうもろこしはもっちりしている。ミニトマトはおいしい。黄色いミニトマトはもっとおいしい。ビールはお昼にはピッタリ。うす味で。セルフサービスは、適度な量でいいと思う。いつも食べすぎて、血圧が上がってしまっているから。

1:30 出発。環境センター見学。ここは 23 ヘクタール。きびが小さい。雨が少ないから。ここは 30 年間無償で借りる。日本円で 30 億円程度。忘れ草、(キスゲ)花がひとつ、食用。

あわにかすみあみ。すずめ対策。じゃがいも。まくわうり。すいか。胡楊。いろんな葉がつく。異形葉。胡楊塩。胡楊 3 千年。生きて千年、枯れて千年、その後千年。しだれのえんじゅ。トウヒ(もみの木に似ている)。ここは 1200m なので、1700m のところに移したら大きくなる。

あんずは、去年も今年も収穫できなかった。

ポプラ。大同県の 3 分の 1 ぐらいにポプラを植えた。よく育った。しかし、大量の水が必要。大きくなって、水が足りなくなる。それで変な形に育つ、木としては育たなかったけど、土地を肥やした。

井戸から 1m80cm 以下のところにパイプを埋めて、配水している。井戸は 140m 掘っている。

トネリコ。たいへん強い木。日本ではスキー板、バットに使っていた。

薬草を集めた所の見学。

2:50 植樹。すべて植えたら雨。大同は毎日夕立だ。

センターへ避難。スイカをいただく。とても甘かった。黄スイカもあった。

3:45 バス出発。京包線の長い貨物列車が通過する下をバスは通る。

4:10 雁北賓館到着。

4:45 自由散策。あるグループは市場。あるグループは城壁の中の街へ。

6:30 お別れの晩さん会。今日で、イオンの労働組合の皆さんともお別れです。GEN 大同事務所の所長と大同市総工会副主席からの挨拶もありました。イオンの労働組合の代表からも、GEN の事務局長からの挨拶もありました。特に高見邦雄さんへの感謝の言葉がいっぱいでした。

【S.M記】

7時起床。昨夜は温泉を堪能し、すっきりとした気持ちで起きる。あかすりにも興味があったが、勇気が足らず断念。もっと中国語ができるようになったらチャレンジしてみたい。

朝食後、外へ出てバスへ、風はずずしく、空には雲もほとんどない快晴で心地よい天気。まさか、その後2回も雨に降られるとは……。

8時40分 出発。バスの中で、高見さんから GEN の活動の歴史を聞きつつ采涼山へ。

9時45分 采涼山に到着。さらにバスで数分登り、地球環境林へ、植樹された松を見学し、さまざまな工夫やご苦労の話を聞く。

10時45分に出発し、10分後、カササギの森へ到着 昨日の長城からの景色と同じく、雄大な風景に感動し、見入る。

11時35分 出発。12時10分に環境センターに到着。空に黒い雲が現れ、雨が降り出すも、室内で昼食のため、濡れずにすむ。

昼食の準備ができるまで スイカやトウモロコシをいただく、大変おいしく、スイカをおかわり、昼食もどれもおいしく、食後には雨も止み再び青空と涼しい風の過ごしやすい気候となる。

13時30分 センターの見学開始 高見さん、前中先生の説明で、センター内の植物を見学。今年は少雨のため作物は小さいとのこと。このツアーでは散々雨に降られているので、少々意外。

移動中、前中先生から 白登山の場所を教えてください。中国と遊牧民の関係の歴史を勉強している身としては 前漢の劉邦が匈奴に敗れた白登山は、ぜひ見ておきたい場所であったので、興奮しながら写真をとる、気分はまるで匈奴の君主の冒頓単于。以後もいろいろな説明を聞きつつ、ついつい目は白登山へ向ってしまった。

見学の後、植林作業へ。開始とともに雷鳴が響き、作業中にポツポツと雨が。雨脚が強まるのとはほぼ同時に作業終了。雨の少ないはずの華北でこう何度も雨にあうとは、と驚きつつ、「雨男」は自分では？と不安に。若干心あたりが……。

センターの建物につくと同時に雨は止んだので、しばし休息 再びスイカを頂く。またまたおかわり。

15時45分 出発 16時5分にホテル到着。部屋で洗濯の後、45分より市内探索へ。

ホテルの目の前に見えている明代の城壁ではなく、その北の、より古い城壁を見学する。中国語に自信がないので、1人で見に行くのは不安があったが、Y.Iさんが同行して下さったので、大変心強く、安心して城壁を見ることができた。その後、明代の城の中に入り、城壁をながめつつホテルに戻る。

18時30分より夕食。今日も豪華な食事でやや食べ過ぎに。

昨日の長城に続き、今日の白登山、大同の旧壁など、自分の勉強している歴史の舞台を訪れることができ、大変楽しい日程を過ごした。そして、遺跡だけではなく、粟や麻など、史料にはよく出てくるのに、実物を見たことがなかった作物を畑で実見できたこと、「北方の乾燥地域では、木は山の北斜面に発達する」といった、本の中でしか知らなかった知識を実地で見ることができ、さらに、その性質を応用した技術などを学ぶことができたのも、大きな収穫であった。残りは1日と少しだが、少しでも多くのことを学び、体験できるよう、体調には気をつけつつ、最後まで楽しんで過したと思う。

【高見邦雄記】

今日は天鎮県の温泉ホテルを朝出発し、大同県まで戻って、采涼山プロジェクト、カササギの森をみたあと、緑の地球環境センターで昼食、午後はそこで活動することになっている。

大同県まで私はイオンリテールワーカーズユニオンのバスに乗り、マイクをつかって大同の安定をしようと思った。ところがこのバスもマイクの調子が悪いため、大同事務所のメガホンを使った。走りにかけてはこのバスはなかなか快適なのだが、マイクはだめだ。

イオンリテールワーカーズユニオンの人たちは昨日朝6時に北京を出発し、天鎮県で緑の地球ネットワークのツアー、サントリー労働組合と合流した。サントリー労働組合は今日の朝方、天鎮の県城でお寺をみたあと、バスで北京空港に向かうことになっている。3つの団が合流したのは昨日一日だけだった。

采涼山プロジェクトでは、いつもの定点でバスを降り、2つのツアーのみなさんに、ここは成功の見込みが立たないから、やめたほうが良いという大同市林業局の技術者の期待を裏切って(?)、プロジェクトを成功させた事情を説明した。

7～9月の雨期の雨を土中に蓄えておいて、翌春の雨のない時期の植栽に利用する「雨期整地」という地元の技術。

土壌微生物の日本における第一人者、小川眞さんに大同にきて指導してもらった菌根菌(マツのばあいはマツの林床にはえるキノコ)の技術。

そして、このプロジェクトのスタート2年目に着任した郷の党書記・張春さんの「植樹一分管理九分」をそのとおりに実践した努力。

この3つがあわさって、やっと実現した成功だった。

采涼山プロジェクトの隣接地に私たちは実験林場・カササギの森を建設した。

そのあと、北京天津風砂源治理工程の1000haもある巨大国家プロジェクトが隣接地にやってきたのだ。合計では2000ha近いグリーンベルトができあがることになる。

その点では、私たちは呼び水の作用をりっぱに果たしたといえるだろう。

その後、実験林場・カササギの森に移った。意外に思ったのは、モンゴリマツの伸びが良好なことだ。

大同市の北部はこれまであまり雨が降らず、干ばつだと武春珍所長から聞いていた。そしてそのとおり、アワやキビなど畑の作物があわれなほど小さなようすも見てきた。それなのに、ここのマツの伸びは良好だといえるだろう。平均して去年が35cmくらい、今年は45cmくらいとずいぶん伸びている。ざっとみたところでも、樹高5mを超えるものがかなりの数になっているようだ。

ちょっと早めに市内に帰り、雁北賓館に入った。今晚は大同市総工会の柴京雲副主席も出席してし、歓迎・歓送会が開かれることになっている。北京の李建華さんの話でも、柴京雲さんは最近、舞台活動がものすごく忙しく、かつたいへんな人気なのだそうである。弟と組んで、大同数来宝というマンザイのようなことをやっているのだが、最近では単独でも活躍しているようだ。

歌が上手で、加藤登紀子さんが大同にきたときは、彼女に中国語の歌を指導した。楽器は40種類以上を演奏することができる。絵も字もうまい。才能があるというのはほんとにうらやましいことだ。

27日から遠くに出張することが決まっているし、イオンの人たちも27日に大同を離れることになっているから、武春珍さんの意見で今晚に開くことになった。歌がうまいことなどを事前にみなさんに話しておけば、リクエストがただらうに惜しいことをした。

個人的なことをちょっと書いておけば、天鎮のホテルに泊まって、今朝起きたとき、扁桃腺が腫れていて、つばを飲み込むのも痛いほどだった。そして、ツアーが大同を離れたあと、私は風邪がひどくなり、発熱して、2日ほど休むことになってしまった。たんに風邪をひいただけでも、ベッドに寝ていると、ああ、これで自分は再起不能ではないか、という考えにとらわれ、弱気になってしまう。

● 8月27日(木) 晴

【0.N記】

前夜、ホテルのまわりを散歩していると、近くの公園で賑やかな音楽と笑い声が聞こえる。公園の中に入ってみると、十数名の女性が手に色とりどりの布をつけ、行列をつくり、大声で笑いながら踊っている。はやしながらの観客20名近く。

民族舞踊か。激しく布を波打たせながら、ステップを合わせ楽しそうに踊っている。テープの音が切れても、すぐに次が始まり、20分近く続いている。暗い中、小さな照明の中で楽しく、激しい

踊りが続く。妙齢の女性たちとおもいきや、よく見ると近所のおばちゃん、おばあさんたち。観ている人も踊りに加わったり、観客になったり、近回りの踊り好きのグループの恒例の行事のよう。大同の女性たちのエネルギーな憩いのひと時を垣間見たような気がした。

朝は快晴、雁北賓館は部屋が清潔で気持ちよい目覚めだ。朝食は、新鮮な野菜料理が様々あり、麺がとてもおいしい。朝からこんなに食べてよいものかと思いながら進む。しかし、深夜中の激しいクラクションの音は何だったんだ。ブー、ブォーン、ブー、ヴォーン、2台と思われるやりとりが、かなりの時間続く。

午前の活動 雲崗石窟（世界遺産）の見学。

ウィグル族の僧（曇曜？）が、北魏の王に願い出て、許され巨大な崖に像を彫り仏像を形づくったとのこと。

第16窟、20窟の仏像が印象に残った。一窟にほぼ10年前後の歳月がかかったようで、全体の元の姿は荘厳だったことだろう。以前と比べ、石窟周辺部の施設整備と緑化の素早さに驚くばかり。こんなことができるんだ。

午後の活動 博物館の見学。

大同市郊外に近年つくられたものとのこと、近くに奇抜なデザインの体育館や公共的な建物が点在する。大同市の発展の象徴として造られた模範地区ではなかろうか。

内部は驚くほど広く、展示スペースもゆったりととってある。旧石器時代から、年代を追ってコーナーが分かれており、たくさんの土器、石器、遺物が展示されている。

大型模型や、映像を使い子どもたちにも興味をもたせるよう工夫してある。こども連れや若い人を含めたくさん見学者が訪れている。北魏の時代の平城、遊牧民族、北京と大同のかかわり等が印象に残った。

夕・夜

夕食は大同名物・羊のシャブシャブを大満腹、大満足。ホテルで休憩後、大同駅の夜行列車へ。

追記 日本の森林の荒廃（身の回りの事例など）

【K.H記】

ツアーも6日目となる。快晴である。今回のツアーは雨に降られる日が多く、初参加の私にとっては、なんとなく気が引けたが、今朝の快晴は気持ちが良い。

いつもより早く8:15集合、8:25出発。造営中の城壁を左に見ながら進む。城壁内の住居群を取り壊し、その人達の住居を周辺の高層建物に移住しているよう。

片側2車線の車道、両側に遊歩道、そして両サイド5～10mの松等の植樹帯が続く。

東川さんの説明によると、雲崗の遺跡が2001年に世界遺産に登録されてからの環境整備によるらしい。

今日の予定の説明で午後に予定をさしていた万人坑の見学が中止と聞く。理由は、工事中の為、バスが行けないとか。うがった見方をすると、9月3日の軍事パレードの為、不測の事態に備えてのことの見方もあるらしい。

見学出来れば重い記憶となったであろう。普通に見学出来るよう願う。

9:00 雲崗石窟現地、一時、トイレ休憩。流石に世界遺産現地のトイレ、中は、日本の観光地のトイレと変わらない。使用する人は色々な人がいる（大便を流さない人も）。

前回の懸空寺の参観同様、年齢により割引制度があり、私はパスポートを見せ、無料（70才以上）で入る。

石窟現地まで行く道中、大同で発見された史料に基づく当時の大容な建物を3箇所程通りすぎ、やっと石窟現地に着く。

このへんが日本人の感覚と違うのか、世界遺産に指定されれば、周辺に新たに、大きく手を加えるところ。

石窟内部に足場を組んでたり、外側の建物を新たに今も建設中だったりする。

11:30 昼食の為、バスで市内に戻る。

12:00 宿舎に戻り昼食、初めて冷えた缶ビール、それにウィスキー割りを飲み、やっとならてきた料理も旨く、食事が進む。

13:30 集合し、市内観光へ（大同博物館 ウォルマート）。

博物館内（14:00～16:00）展示物に圧倒される。

太古の恐竜から始まり、イン、周、等々、日本の博物館と違い撮影自由。展示図録図書は販売は無しでした。

ウォルマート（16:00～18:00）皆さん夫々に買物をする。袋物持込みの場合、入口で開閉出来ないよう。

18:15 夕食（羊肉のシャブシャブ）～19:30

皆さん、会話もせず羊のシャブシャブに舌つづみを打ち、黙々と食べる。

20:00 ホテル着。各自荷物の積み換え等行う。

21:00 ホテル発。21:20頃、駅につく。2回荷物検査後、待合室へ。

22:30 大同市発。夜行列車

今回のスタディツアーも残り明日一日となる。流石に20数年の蓄積を各所で体験させて頂きました。特に昨日の、大同事務所の実験林場は日常の管理が行届いているのに感銘を受けました。

20数年にわたり、大同で培かれた GEN の有形無形の財産を、末永く、日中友好に活かしていただけたらと思います。

【T.M 記】

すがすがしい秋の空気のように感じながらホテルの玄関を出、すぐ左隣の表示板を見に行つた。気温 19℃、湿度 48%。やはり秋の空気だ。

8:15 ホテルロビー集合でバスで雲崗石窟へ向う。左側に見えてきた炭坑も今ではオートメーション採くつになつていて、以前は深さ 100m 程度だったのが、200～300m ぐらいまで深く掘っているそう。東川さんの話では道の両側も樹木が無く、左の川も見えたそう（23 年前）。私の 8 年前に来た時にも道の両側に大きな木はほとんど無かった気がする。並木が邪魔になって建物や山などの写真がとて撮りにくく感じる。

9 時頃にバスを降りて入口へ。ずいぶんと石窟から遠い所に入口が出来たようだ。石窟のある丘はまだ見えない。様々な施設が出来上がっていて、一種のテーマパークのようだ。やっとなら第 1 窟の所に来て 9:40。第 2 窟の前まで自由に、10:40 集合とのアナウンスあり。

新しい石畳ができていてとっても歩きやすく、その道のすぐ下まで一面に樹木が植えられていて、8 年前の雲崗とはまったくイメージが違ってしまった。どうも植林が過ぎてしまって、黄土高原の石窟というより、雲崗石窟というイメージパークをつくっているような気がした。

たぶんこれも強腕市長の 5 年間の仕事なのだろう。石窟に今回も驚きがいっぱいで感動でした。が外へ出たの整備された周囲が、風雪に耐えぬいた石仏の年月を忘れさせてしまうので、どうも異和感を感じてならなかった。

11:20 頃出口を出てバスに乗り、雁北賓館へ 12:00 に戻って 2F で昼食。1:30 発で 2:00 頃大同市博物館着。4 時まで自由に博物館見学。大同市の発掘品などを中心に恐竜時代から始まる歴史展示だ。私は S.M さんの話を聞いて、とっても楽しく見学できた。

大同市博物館の建物はとてもユニークな建築デザインで驚いたが、この一帯には他にもユニークな建築物だらけでおもしろかった。中にはピラミッドからインスピレーションを受けたような建築や、イモ虫が身をくねらせているような建物など、10 ぐらい集まっていて、まるで建築デザインのコンテスト会場のようだ。

その後ウォルマートへ移動して 4:30～6:00 に買物。6:40～7:40 頃シャブシャブの店で夕食。ま

たホテル雁北へ戻って荷物の整理。9:00 集合で大同駅へ向かう。キップとパスポートを見せ荷物の検査を受けて待合室へ。10 時頃列車に乗り、10:25 よいよ出発した。朝 5 時半頃北京の黄村着だから、トイレは 5 時頃にすませると良いとの高見さんのアドバイスもあった。

● 8 月 28 日（金）晴

【A.N 記】

早朝 5 時過ぎに北京市郊外の黄村駅に到着、バスにて北京空港に向う。

途中のサウナで汗を流し、朝食の後、道教の寺院で旅の安全の感謝を奉ずる。

7 日間があつと言う間に過ぎてしまったが、20 年余りに及ぶ GEN の活動の成果を実感した毎日であった。

“黄土高原に木を植えよう”と声を上げた初期の写真からは想像できない程、山々には緑が広がり、あんずの実は地元を潤している。

地方都市の大同でも、町のようす、人々の生活が豊かになっていることが判る。

やはり、中国は大いなる隣国、隣人である。数千年に及ぶ交流の成果が黄土高原の緑に引き継がれていると思った。

“まず一歩から” “継続は力なり”

これからも GEN のような草の根の交流が絶えることのないように関わっていきたいと思う。

ツアー参加の皆様、色々教えて頂き、ありがとうございました。

また、お会いしましょう。

【F.N 記】

夜行寝台列車にて大同市より北京へ

5:00 長い臨時停車 車掌が黄村駅で降りる乗客を起こして回っている。鍵のかかったコンパートメントも鍵を開けて起こしている。2 車両に一人の車掌が担当。相変わらず乗車券とアルミの番号札をいちいち交換して、降車の時にまた切符に交換してくれる。非効率な方式が踏襲されている。

動き始めたら 15 分で到着といわれ、荷物をもって降車準備。夜が白み始める。コンパートメントで一緒だったのは O.N さん、S.M 君、F.N とどっかのおばちゃん（58 歳）。おばちゃんは訛りがきついし、F.N は基本的に下手。Dr. S.M の中国語もなかなか通じないので筆談半分で大いに盛り上がったが、おばちゃんは昨夜寝てから爆睡している。さよならも言わずにお別れ。

5:38 黄村駅着

バスが待っている。かなりの大型でゆっくり移動。

6:27am 蓮花地東路 サウナ賽納河に到着。Y.I さんがここで別れる。Taxi でさっそうとお別れ。

9 歳年上の旦那さんに怖がられていて、コワ可愛い「かわいい」といわれているらしい。

F.N は二度目。この非効率なシステムをご紹介。まず靴の番人ともいう感じの男の子が靴に札を付けて、鍵を渡してくれる。これをもってサウナの入り口に行くともた男の子がこの鍵の番号を見てロッカーまでご案内。サウナにいる間中 2～3 人の男の子がいろいろ面倒見てくれて、バスタオルをかけてくれたりする。体を拭くと紙のパンツがいるかと聞かれて、パンツをはくと、半ズボンのパジャマを出してくれる。これを着てレストランへ。食べ終わると、またロッカールームで着替えて、今度は別の階のカウンターで鍵を渡すとなんか端末で打ち込んで、レシートをくれる。これを 1 階にもって行って靴を履く。

日本だと最初に金を払ったら、食事券くれてあとは自分で全部やれると思うのだが。男子サウナの中は真ん中にいくつかの浴槽があってサウナ室は早朝のためかまだ動いてない。浴槽周りにシャワーがあり、ロッカーがあり便器がある。便器は周囲から丸見えで、到着早々 K.H さんと並んで座った。快便！！

浴槽はぬるかった。レストランはコーラがあった他は取り立てて言うほどのものは何もなし。T.S さ

んここで別れて友人のもとへ。

8:00am 出発。道教寺院 白雲觀へ歩いて移動。見どころ満載の寺院である。10:00am サウナ賽納河前を出発 北京首都機場へ向かう

11:05am 機場到着 このバスにはETCがついていた。

荷物を預けて一息入れる。

11:50am 唐さんと別れる。唐さんお疲れ様。またお会いしましょう。お世話になりました、と拍手で送る。それぞれお好みのメニューで昼食。K.Hさん、東川さん、F.Nは3人で秦風牛肉麵 48元、ビール 35元、お手拭き 2元

13:30pm 搭乗口 E-24 に集合

14:20pm 出発 S.Mくんが見送ってくれる。1時間あとの成田行きに搭乗予定。日本時間に合わせる 15:20pm

機内食：牛肉のシチューと白いごはん、ポテトサラダとサラミ2切、ミニトマトとチーズ、冷やしうどん。

17:00pm 頃、朝鮮半島横断中

18:30pm 着陸

18:45pm 入国、外でGENのカワモトさんがお出迎え。解散

大変お疲れ様でした。

最終日は何もハプニングもなく、淡々と過ぎた。記録当番としては、ハズレの日か！ それとも当たりか？ 楽しい時間は過ぎるのが早い。

今回初参加の皆さんも、初日の霊丘の自然植物園の緑を見て驚いていた。緑が一杯じゃないか！ 呉城村のアンズ畑、天鎮県の地球環境林、采涼山地球環境林、カササギの森、雲崗の石窟回りなどどこもかなりの緑だった。16年前にツアーに参加した時は、どこもここも黄土が露出していて、南天門の植樹のさいなど、山の北側にしか植物は育たないということ、南側に樹木が定着するなんて考えられなかった。結局、住民の生活のための燃料採取や動物の放牧などの人的負荷が極めて大きかったと考えられる。中国地元政府の緑化への取り組みを思想面でも技術面でもリードしてきたGENの役割は大きかったと思う。今後の活動をどう展開するのか課題は大きいと思う。GENにはかなり多くの、しかも長い間支援してきた会員と、法人会員、大同にある各種施設とカウンターパートナーとの人的繋がりという大きな資産がある。これを無に帰すことはできないだろう。益々の発展を心から願う。

この記録は、緑の地球ネットワーク 2015年8月黄土高原スタディツアーに参加したみなさんがツアー中交代でつけた日誌と、一部参加者より事後に寄せられた手記をまとめたものです。一部の漢字・仮名遣いや句読点の使い方、改行の仕方、固有名詞の誤記等改めた部分もありますが、文章表現は原文のままです。ただし、簡体字（中国の略式漢字）は編集の便宜上できるかぎり相当する日本の漢字に改めました。

2015年12月
緑の地球ネットワーク

